

# 地方における道路維持管理の、今後の課題に関する研究

岡崎 邦彦

## 要旨

地方の自治体の大部分は、人口減少、過疎化、高齢化という共通の問題に苦しんでいる。

また、近年は国の財政制度改革の影響を受け、財政的に苦しい状況にあるのも共通している。

この結果、地域の公共事業は縮小の一途をたどり、地域の主要産業であった建設業も厳しい経営環境にある。

我が国の道路が本格的に整備され始めたのは戦後のことであり、特に、高度成長期以降大量に整備が進められてきた。今後、これらの大量に作られた道路資産が徐々に老朽化していくが、前述のような状況から、増大する維持管理に要する費用の確保が課題となってくる。

この研究では、高知県の過去の道路整備事業に関するデータを整理し、社会資産としての道路はどれだけの資産価値があるか算出を行うとともに、現在実施している道路の維持管理の内容を整理し、今後、道路利用者が安心・安全に道路を利用するために、毎年どの程度の維持管理費用を必要とするのか、最低限必要な金額を算出する。

そのうえで、このストックを主に利用する高知県の将来人口の予測から、将来の県民に関わる道路の維持管理費用はどのような形になっていくのかを試算し、予想される課題について抽出を行うものである。